

## 1 水稻生育状況（7月15日現在）

## ●生育状況調査（中苗・ななつぼし）

区分	草丈 (cm)	葉数 (葉)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	遅速 日数	備考 ※ ( )は平年比
R5年	64.6	10.7	518.7	早3	幼形期 7/4 (早2)
平年値	62.4	10.3	583.1		
差	2.2	0.4	-64.4		

★ななつぼしは冷害危険期終盤になる。

★一般的な生育のななつぼしでは7/20～22頃まで。 終了の目安は1株内で約8割が止葉抽出した状態（葉耳間長が+5cm）である。

## (1) 冷害危険期終了後の水管理

ア 冷害危険期終了後は直ちに落水し、必要に応じて、短期中干し（3～4日程度）実施する。（根に酸素を供給、地固めにより収穫作業をしやすくするため）

イ 間断かんがいを実施

（水をためておく必要はなく、土壌水分の確保→開花には水分が必要）

## (2) 病害虫対策

ア 葉いもち発生予測（ブラスタム）では、日高門別アメダス（7/12更新）では好適条件には未達。すでに薬剤散布が行われている所もあるが、防除は計画的に進めること。

イ いもち病は早期発見が被害を最小限に抑えるポイント。過去に発生したほ場、風当たりの少ないほ場を中心に見回りを行う。

## 2 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3～4月定植：5～6段果房収穫中。</li> <li>・5月定植：2段果房収穫中。</li> <li>・6月定植：3段果房開花始。</li> </ul> <病害虫・障害> <ul style="list-style-type: none"> <li>・灰色かび病、軟果、尻腐れ果の発生が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベット内側の葉や老化葉を中心に摘葉を行い風通しを良くする。</li> <li>・リーフカバー、遮光資材の利用、ハウスの開放、換気等で高温や多湿環境を防ぐ。</li> <li>・少量多回数かん水と追肥を行い、土壌水分確保や草勢維持に努める。</li> </ul>
ハウス軟白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3～4月定植作型収穫中。</li> <li>・ハモグリハエ類が一部で見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウス内外の除草を行う。</li> <li>・収穫、調整残さを整理する。</li> <li>・ハモグリハエ類の防除には浸透移行性のある薬剤を使用する。</li> </ul>
アスパラガス (ハウス立茎)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏芽収穫中。</li> <li>・斑点病の発生が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウス周辺の除草を行う。</li> <li>・斑点病の防除をする。</li> </ul>
かぼちゃ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一番果肥大期。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うどんこ病、黒斑病の防除をする。</li> </ul>

### 3 畑 作

(1) 秋まき小麦

品質保持のため収穫開始時の子実水分は35%を上限。  
水分測定により収穫時期を判断する。

\*赤かび病の多発したほ場は別刈とし、分けて乾燥調製作業を進める。

(2) ばれいしょ

開花後期は菌核病の発生に留意する。また、高温が続くと夏疫病の発生が心配されるので効果のある薬剤を選択する。夜温の高い日が続いているので軟腐病の発生に注意が必要。収穫を迎えるほ場については塊茎腐敗に効果のある薬剤を選択する。

ほ場を良く観察し、発生状況に注意しながら予防防除に努める。

【発生環境と防除例】

発生環境	疫 病		軟腐病
	気温：18～20℃多湿		気温：25～30℃ 多湿 寝苦しい夜が続くとき
未発生ほ場	グリーンペンコゼブ（夏疫病） フロンサイド（夏疫病、菌核病、塊茎腐敗） ダコニールエース（夏疫病） プロポーズ顆粒水和剤（夏疫病、塊茎腐敗） ランマンフロアブル（塊茎腐敗）		コサイド3000
発生ほ場	ホライズンドライフロアブル ゾーベックエンカンティアSE、グットクル 水和剤		スターナ水和剤

(3) 豆類

○大豆 ベと病の発生が上位葉に多い場合は防除する。

○小豆 菌核病、灰色かび病の防除は開花始後7～10日目に1回目防除する。

\* 菌核病・灰色かび病防除例：スミレックス水和剤

(4) てんさい

○褐斑病：高温、多湿条件で発生しやすい。連作や前年発生した隣接畑では早期の発生や、多発生の恐れがあるため、定期的な防除を心がける。

○ヨウトウガ、カメノコハムシ：食害を確認後、薬剤を茎葉処理する。

\* てんさいは糖業の技術情報を参照

### 4 飼料作物生育状況（7月15日現在）

作物名	生 育 状 況				農作業	適 要
	項目	R5年	平年	遅速日数	収穫終(平年値)	
牧草(2番)	草丈(cm)	29.1cm	27.6cm	+1	7/14(7/18)	好天により1番草収穫は順調に終了した(+4日)
デントコーン	草丈(cm) 葉数(葉)	201.3cm 14.5葉	146.8cm 12.5葉	+7		生育は平年より早くすすんでいる

● 2番草の刈り取り時期

牧草の2番草は、1番草刈り取りから①チモシー主体草地で55日、②オーチャードグラス主体草地で45日後を目安に刈り取る。なお、オーチャードグラス及びリードカナリー主体草地では、刈り取り時期が遅れると採食量の低下が著しいため、適期に刈り取る。

● 新播草地の管理

雑草が多発した新播草地は、雑草の草丈20～30cmを目安に掃除刈りを行う。掃除刈りした雑草は、ほ場に放置せず速やかに搬出する。